

令和7年産大崎地域の 大豆作技術情報(第5号)

令和7年10月17日発行
宮城県大崎農業改良普及センター
TEL: 0229-91-0726 FAX: 0229-23-0910
<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～今後の管理のポイント～

- ・雑草や青立ち株の抜き取りを実施し、汚粒発生防止に努めましょう。
- ・適期収穫を心がけ、刈り遅れないよう注意しましょう。
- ・品質低下を防ぐために、乾燥時の温度管理を徹底しましょう。

1 気象経過

- ・気温は、8月第4半旬から9月第2半旬、9月第6半旬から10月第2半旬を中心に全体的に高く推移しました。
- ・降水量は、8月第4、5半旬は降雨が無かったものの、9月第1半旬から第4半旬にまとまった降雨がありました。
- ・日照時間は、8月第4、5、6半旬及び9月第6半旬は多照、それ以外は平年並でした。

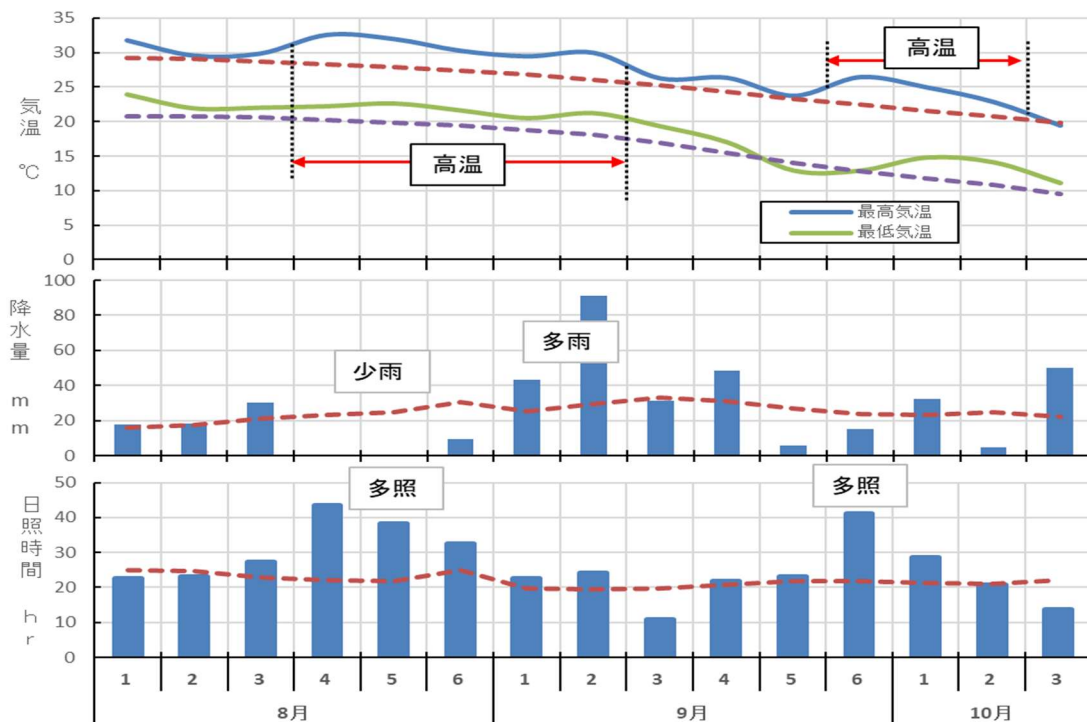


図1 8月第1半旬～10月第3半旬までの気象(古川アメダス)

※実線・棒グラフは本年値、点線は平年値

東北太平洋側 1 か月予報 (10月18日から11月17日) 10月16日仙台区気象台発表

<向こう1か月の確率(%)>

	低(少)	平年並	高(多)
【気温】	20	40	40
【降水量】	30	40	30
【日照時間】	30	40	30

<気温経過の確率(%)>

	低い	平年並	高い
1 週 目	50	40	10
2 週 目	20	40	40
3～4 週 目	20	30	50

2 生育概況

- ・「古川タンレイ」は、主茎長・主茎節数が平年・前年を下回るのに対して、分枝数は平年・前年を上回りました。
- ・「古川ミヤギシロメ」は、主茎長・主茎節数・分枝数が平年・前年を上回りました。
- ・「古川きぬさやか」は、主茎長・主茎節数が前年を下回るのに対して、分枝数は前年を上回りました。
- ・「小野田すずみのり」は主茎長・主茎節数が前年を下回るのに対して、分枝数は前年を上回りました。

表1 生育調査結果

地区名 品種	区分	播種日	開花期	9月1日		
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
古川 タンレイ	本年	5月28日	7月22日	48.4	12.7	4.8
	前年比	1日遅い	2日遅い	57%	81%	152%
	平年比	1日遅い	5日早い	71%	84%	164%
古川 ミヤギシロメ	本年	6月6日	8月2日	111.3	17.5	5.2
	前年比	1日早い	2日遅い	123%	106%	106%
	平年比	2日早い	3日早い	125%	103%	119%
古川 きぬさやか	本年	5月30日	7月27日	44.4	10.5	8.3
	前年比	2日遅い	2日早い	57%	74%	188%
小野田 すずみのり	本年	6月12日	7月28日	48.5	8.6	4.7
	前年比	4日遅い	2日早い	64%	60%	138%

※1 平年比は、前5カ年（令和2年～令和6年）の平均値との比較

※2 「古川きぬさやか」、「小野田すずみのり」は令和6年より調査開始

- ・10月16日現在、タンレイは落葉期、きぬさやか・すずみのりは黄葉期～落葉期、晩生のミヤギシロメは黄葉期となっています。
- ・過去の開花期及び成熟期とザルビオ®の予測によると、タンレイは、10月28日頃、ミヤギシロメは11月1日～4日頃が成熟期になると推測されます。

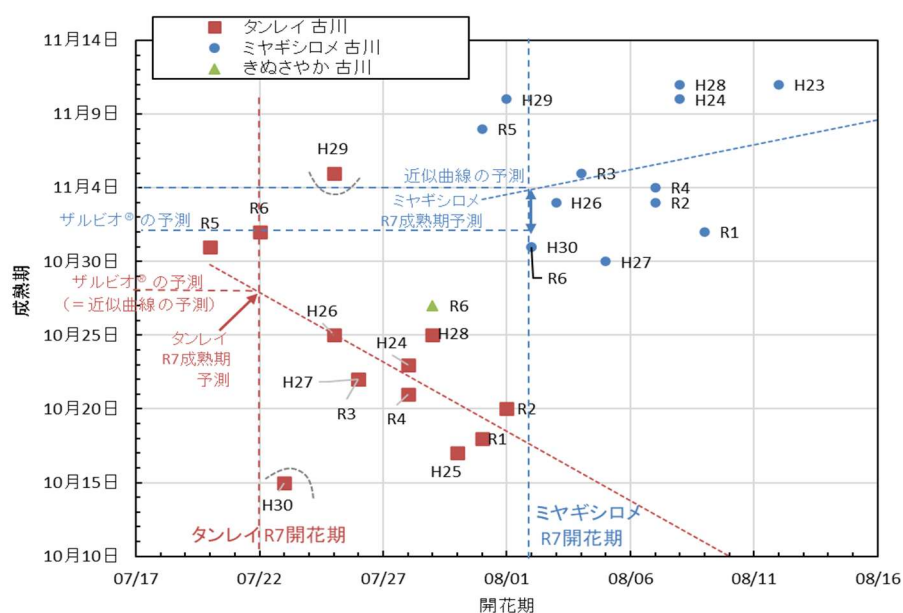


図2 生育調査ほ場における、タンレイ、ミヤギシロメ・きぬさやかの開花期と成熟期の関係

3 今後の栽培管理のポイント

(1) ほ場の確認

○排水対策

- ・ほ場表面に水が停滞しないよう、排水口や暗きよの点検整備を行いましょう。

○雑草・青立ち株の抜き取り

- ・収穫時に水分の高い雑草やイヌホオズキの様に高水分の果実をつける雑草は、汚粒の原因になるので収穫前に抜き取りましょう。
- ・青立ち株（生育が不揃いで茎葉が青く、落葉していない株）は茎水分が高く、収穫時に子実を汚損する恐れがあるので、収穫前に抜き取りましょう。
昨年は、多くのほ場で青立ち株が散見されました。今年も登熟期間に遭遇した高温・乾燥により、落莢や莢に栄養が転流されずに、結果として茎や葉に栄養が残ったことにより青立ち株が発生しているものと予想されます。



汚粒の原因

オオイヌタデ

アメリカセンダングサ

ホソアオゲイトウ

イヌホオズキ



ほ場に発生している青立ち株



青立ち株のようす
茎や葉は青々としているが、莢がついていない。

難防除雑草対策について

○帰化アサガオ類やアレチウリなどの難防除雑草が多発したほ場では、種子が収穫物に混入したり、コンバインに付着した種子が他ほ場に運ばれ伝播します。発生ほ場の収穫は最後とし、発生ほ場では可能な限り雑草を抜き取ってから収穫作業に入り、収穫後のコンバインは徹底的に清掃しましょう。



帰化アサガオ類



アレチウリ



クサネム

○大豆と同じマメ科であるクサネムやヤブツルアズキも残草しやすい雑草です。特にクサネムは水稻作でも問題となりますので、発生ほ場から出たくず大豆を有機質資材等として水田に還元するのはやめましょう。

ヤブツルアズキ



(2) 適期収穫の実施

○収穫が遅れると品質低下等に繋がるので、適期の収穫を行いましょう。

○**収穫適期は、成熟期の10～20日後頃**とされ、子実水分18%以下、茎水分50%以下となった時期です。図3にしたがって、茎・莢の色、莢内での子実の振動音、茎の切断音などから総合的に判断します。

○収穫作業は天候とほ場全体の状況を考慮しながら行いましょう。高水分で刈取しないように、収穫前には必ず子実水分を測定しましょう。

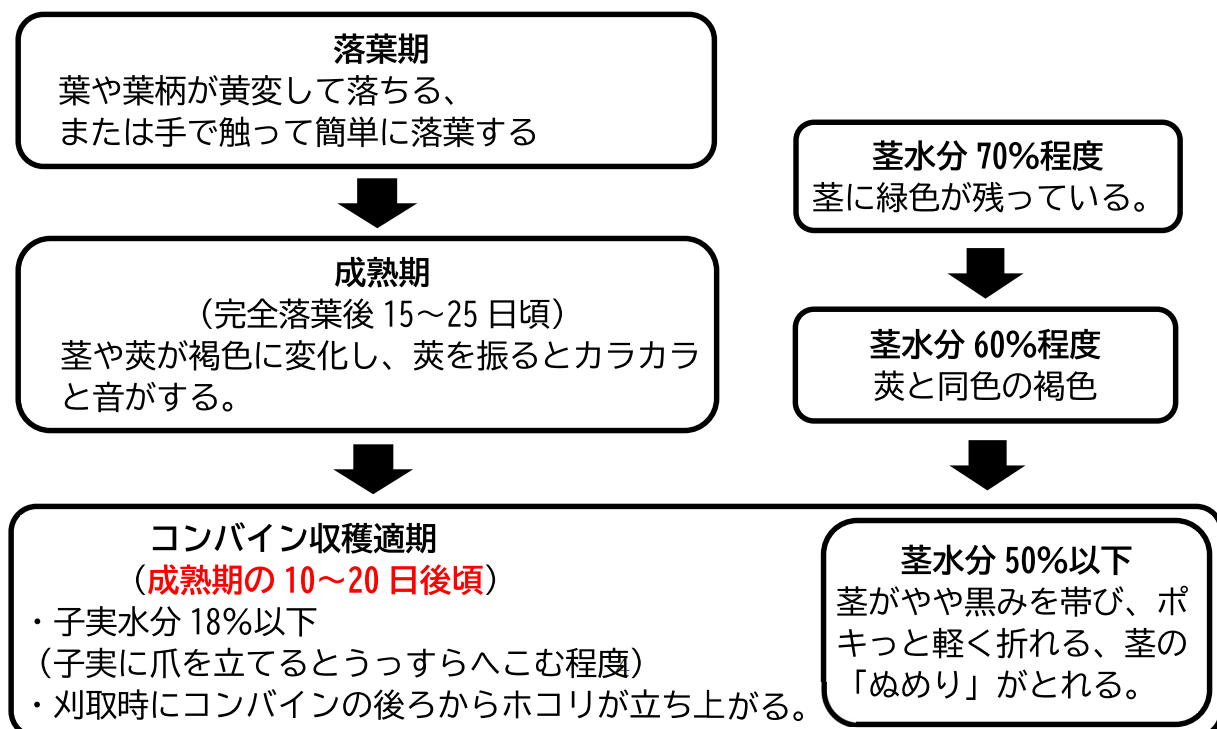


図3 大豆の成熟経過とコンバイン収穫適期

コンバイン収穫時の留意点

- ・子実水分が高いと「つぶれ豆」が発生するため、子実水分は18%以下
- ・茎水分が高いと「汚粒」が発生するため、成熟期以降の茎水分50%以下
- ・刈取時刻の目安は、前日・当日とも晴天の場合、午前10時～午後4時頃
※前日が雨の場合は、作業を控えましょう。
- ・汚粒発生の大きな要因は「土の掻き込み」です。刈刃が土を掻き込まないように刈り取りの高さは10 cm程度としましょう。

(3) 乾燥作業

- 大豆は粒が大きいいため、外側は水分が抜けやすく、内側の水分は外側に移動しにくいという特徴があります。急激な乾燥は、しわや裂皮など、被害粒の発生原因となりますので、品質低下を防ぐためにも温度管理に注意しましょう。
- ほ場によって子実水分のバラツキが大きい場合があるので、こまめに水分測定を行いましょう。

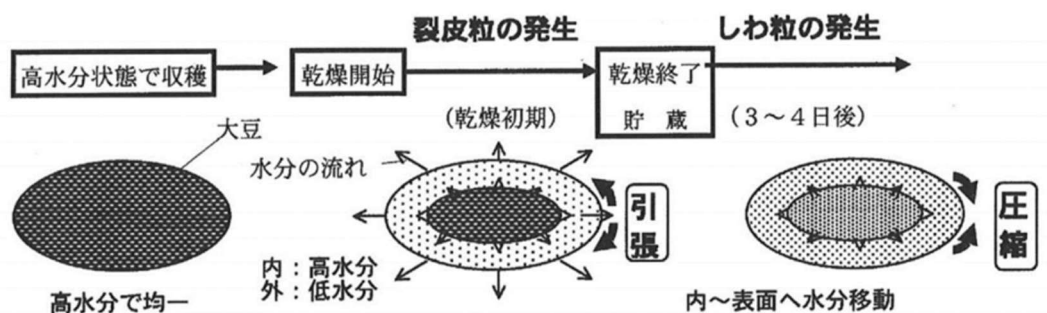


図4 大豆乾燥における被害粒発生機構

乾燥時の注意点

- ・循環式乾燥機等火力乾燥では、送風温度を30℃以下とし、裂皮粒やしわ粒の発生を抑えましょう。
- ・やむを得ず子実水分18%を超えるロットを乾燥させる場合は、熱風温度をさらに低め（常温または25℃以下）に設定しましょう。
- ・送風温度は、晴天時には常温乾燥（無加温）とし、雨天・夜間は常温+5℃程度を目安としましょう。
- ・仕上げ子実水分は13%程度（検査基準は15.0%以下）にしましょう。

～今年産の大豆を振り返ってみましょう～

収穫した大豆の中に被害粒がないか確認してみましょう。以下のような被害粒が多い場合は、次期作の病害虫防除を徹底しましょう。



写真1



写真2



写真3



写真4

写真1：紫斑病による「紫斑粒」

写真2：マメシンクイガによる「くちかけ粒」

写真3：フタスジヒメハムシによる「黒斑粒」

写真4：フタスジヒメハムシによる「腐敗粒」

※病害虫の防除時期や防除体系については「令和6年産大崎地域の大豆作技術情報第4号」をご参照ください。

◆◆◆◆◆秋の農作業安全確認運動実施中（9月1日～11月30日）◆◆◆◆◆

農業機械作業による死亡事故割合が高い状況を踏まえ、①ほ場周辺の危険箇所の確認・改善及び危険回避行動の実践、②シートベルトとヘルメットの着用、③トラクターへの安全フレーム・安全キャブの使用の呼びかけを行います。

重点推進テーマ 「徹底しよう！農業機械の転落・防止対策」

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

